

## 平成 23 年 NPO 法人新住協 全国研修会を終えて

日程：平成 23 年 5 月 19 日～平成 23 年 5 月 21 日

場所：リサーチパーク京都

STV 興発株式会社  
ハウジング部 小納一浩

全国研修会は、北海道から九州まで全国より熱心な“家づくり”を行なっている 126 社 189 名の参加により開催されました。

鎌田先生による基調講演のテーマは「Q1.0 から Q1.0-X へ」Q1.0 を更にグレードアップし“Grade1”～“Grade4”まで細分化するもので、今後 更に注目される CO2 削減・LCC マイナスに対応する高断熱住宅グレード分けするものです。

また、ガラスの種類に気を付けながら日射熱取得を意識する事が重要に感じました。

技術研修では冒頭、3 月 11 日の東日本大震災に自らも被災した会沢事務局長から全国の各支部よりの支援に対してお礼があり、中でも被災し、津波によって工具も材料も全てを失い、やる気も無くなって、他県から来た職人が仮設住宅を建設している様子を見ているしかなかった新住協メンバーに対して、岐阜支部は 4 t トラック 3 台分の工具を支援物資として現地まで運び、それを見た被災した新住協メンバーも再度やる気を取り戻したとの話を会沢事務局長が声を震わせながら話している姿がとても印象的で、新住協の強い結束を感じました。

技術研修の内容としては、灯油ボイラーによる温水パネル方式の暖房ではあるが、地震により停電（停電期間は 5 日間、ただし、通電後も暖房は点火していない）し、ボイラーが使えなくなった状態の仙台にある会沢事務局長のご自宅（Q-1.0 住宅）による無暖房実験（データ取り）です。

日本はおろか世界中でも大騒ぎになっている最中、たまたま震災前から「おんどとり」をセットしていたとはいえ、よくこの様なデータを取ったものだとプロ根性に驚きです。

今後は、更なる CO2 削減・LCC マイナスについてコストを見ながらの対応、新住協メンバーによる結束、会沢事務局長のプロ根性を実感した全国研修会でした。



研修会場前 メーカー展示



研修会場（リサーチパーク京都）



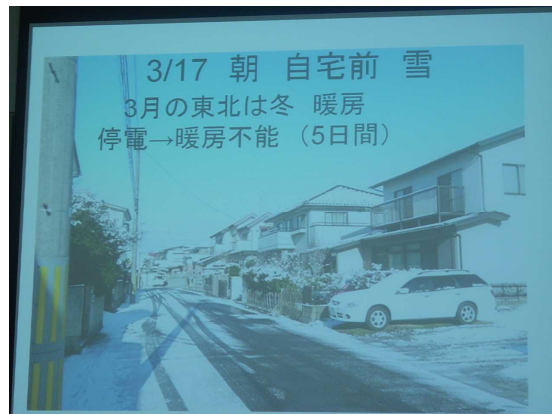
鎌田先生による基調講演



筑波の LCC マイナス実験住宅  
（太陽光パネル 8kw/h、太陽熱給湯他）



東日本大震災による津波



会沢事務局長ご自宅前